

【未然防止からはじめる品質管理】

～“起きてから”では遅い！品質不良ゼロをめざす新常識～

「また同じような不良が出た…」「クレームは現場の努力で減らせるのか？」
そんな声に悩む企業様も多いのではないのでしょうか。

実は、不良やクレームの多くは“偶然”起きたわけではありません。起こるべくして起こった“未然に防げたはずの問題”が多くを占めています。

今回は、「未然防止」という視点から品質管理の考え方を見直し、再発防止から脱却し、“そもそも不良を起こさない仕組み”づくりに向けたヒントをお届けします。

同じ不良が何度も起きる

→根本原因が放置されているため、“場当たり的な対応”が繰り返される

不良の発生後、対応に多大な工数がかかる

→調査・報告・修理・顧客対応などのコストが発生

現場のモチベーションが低下

→「またか」「どうせ改善しても変わらない」というあきらめの空気

顧客からの信頼を失う

→品質の悪さが定評となり、取引停止や競合への乗り換えにつながる

未然防止とは、こうした“隠れた損失”を事前に断ち切るための経営的なリスクマネジメント手法とも言えます。



Q3：未然防止のために、現場ではどんな取り組みができる？

A3：設計・工程・管理の3つの視点から「リスク見える化」する取り組みが有効です。

未然防止を実現するためには、製品やプロセスに潜むリスクを可視化し、先回りして手を打つことが重要です。現場で活用できる主な手法は以下の通りです。

FMEA（故障モード影響解析）：

設計や工程の中で発生し得る故障とその影響を事前に洗い出す

DR（デザインレビュー）：

設計段階での見落とし・矛盾・曖昧さを関係者で検証

ヒヤリハット・KY活動（危険予知）：

過去に“ヒヤッ”とした出来事から学び、同様のミスを防止

（次ページへつづく）

Q1：未然防止ってよく聞くけど、具体的にはどういう意味？

A1：「問題が起きる前に、その芽を見つけて摘む」ための品質管理の考え方です。

「未然防止」とは、不良やクレームなどの品質トラブルが実際に発生する前に、予兆や原因の種を発見・対処する活動です。よく混同されがちな「再発防止」との違いを整理すると、次のようになります。

項目	再発防止	未然防止
タイミング	問題が起きた後の対処	問題が起きる前の予防
情報源	過去の不良、クレーム	設計レビュー、FMEA、ヒヤリハット
主な手段	なぜなぜ分析、是正処置	予測、検証、管理の強化

つまり未然防止とは、“不良ゼロ”を目指すための攻めの品質管理なのです。

Q2：未然防止ができていないと、どんな弊害がある？

A2：繰り返し不良、対処コストの増大、信頼の喪失など、目に見える損失が生じます。

未然防止がなされていないと、組織にはさまざまな影響が及びます。具体的には、

工程FMEAや制御計画：
製造プロセスにおける潜在的な不具合の予測
と制御方法の策定

ある部品メーカーでは、FMEAとDRを開発初期に
導入した結果、出荷後の品質問題件数が3年で
70%削減されました。

**Q4：「未然防止は大事」と分かっているけど、
なかなか定着しないのはなぜ？**

**A4：現場の“やらされ感”や、形骸化したツール
運用が定着を妨げていることが多いです。**

未然防止がうまく定着しない理由は、以下のよう
な“組織的な障壁”が影響している場合が多く見ら
れます。

FMEAやDRが「書類を埋めるだけの作業」にな
っている

→形式だけが残ри、本来の目的（リスク低
減）が忘れられている

「どうせ不良はゼロにならない」という諦めの
風土

→過去の改善が失敗した経験や、評価されな
い体験が背景にある

管理職の関与不足

→「現場の仕事」として任せきりにしてしま
う

成功事例の共有不足

→未然防止の成果が社内に見える形で伝わっ
ていない

これらを打破するには、ツールだけでなく「目的
意識」と「風土づくり」が重要になります。

**Q5：未然防止を学ばせたいが、教育をどのよ
うに進めればよい？**

**A5：事例ベースの演習と、“自社課題を題材にし
た学習”が効果的です。**

未然防止の教育では、「考え方」「手法の使い
方」「現場での活かし方」の3つをバランス良く
組み合わせることがポイントです。おすすめのス
テップは以下の通りです。

1. 基礎理解：未然防止の考え方、再発防止との違
い、FMEA・DRの役割などを座学で
理解
2. 手法演習：FMEAやなぜなぜ分析のテンプレ
ートを使い、簡単な事例で演習
3. 実践教育：より実践的な事例を使ってワークシ
ョップ形式で分析・対策立案
4. 報告・発表会：改善成果を発表し、全社での共
有を図る
5. フォローアップ教育：定期的に事例レビューや
改善活動の見直しを実施

※上記3.と4.については実践教育として実施しており
ます。詳細はお問い合わせください。

JUSEでは、初学者向けの研修や、現場改善を題材
にしたFMEA演習セミナーなど、段階的な教育メ
ニューをご用意しております。

「品質トラブルが起きる前に止める力」を育てた
い方は、ぜひ一度お気軽にご相談ください。

まとめ：

未然防止は、「問題が起きる前に気づく力」を育
てる品質管理の中核です。再発防止に追われる
日々から抜け出し、トラブルの“そもそも”を断ち
切る企業体質を築くために、今こそ未然防止の強
化が求められています。

一般財団法人日本科学技術連盟

品質経営推進センター 営業・企画グループ

https://www.juse.jp/shanai_seminar/app/step1/?

*社内セミナーに関するお問い合わせは、上記リンク先よりお願いいたします。

